

ooooooooフェンス工事

施

画書

斗

oo

<https://www.sekouya.com>

oooo

株式会社

フェンス工事

oooo工業有限公司

■ フェンス工事

目 次

1) 一般事項

- a . 施工場所
- b . 施工期間
- c . 設計仕様
- d . その他
- e . 概要図
- f . 施工体制

2) 布基礎工事

- a . 使用材料
- b . 墨出し・遣り方
- c . 基礎の施工
- d . コンクリートの

3) ブロック工事

- a . 施工準備
- b . 鉄 筋
- c . 根付け
- d . 目地モルタル
- e . 積み方順序
- f . 養 生
- g . 施工結果の確認
- h . 境界

4) フェンス工事

- a . 施工手順フロー
- b . 基礎ブロックの
- c . フェンス材料
- d . フェンスの施

5) メッシュ門扉

<https://www.sekouya.com>

1) 一般事項

a. 施工概要

施工場所	〇〇市〇〇町〇〇123番地
施工期間	平成〇 〇 〇 〇 年〇 〇 月〇 〇 日

b. 設計仕様

(1)基 礎	基 礎	250×H450 ート布基礎	延べ〇〇箇所 延べ 150m
(2)フェンス	東洋 〇〇 色：	〇〇 =1,800mm	延べ 230m
(3)門 扉			

c. その他

(1)材料は、すべて新品とし、

うけて使用する。

(2)産業廃棄物の処理

ケレン、撤去及び補修工事

の処理法などに従い必要な処置を講ずる。

(3)電気・給排水

本工事に必要な、電気およ

に核敷地内施設を使用する。

(4)資機材置場駐車場

本工事に必要な機材置場及
る。

スペースは、協議の上当核敷地内を使用す

(5)安全衛生管理

作業所の安全、衛生に関する
整理整頓、清掃につとめる。

従ってこれを行う。又、作業所は、常に

・電動工具類の使用は、許可を受け、始業点検を励行する。

・作業主任者は各作業員の健康状態を把握し、適当でない作業員は従事させない。

・施工中の現場付近では、火気を使用しない。

(6)後片付け

各工事の段階において不用となった資材及び不合格となった材料は速やかに場外に搬出す

る。

工事完了後は速やかに残材等を取除き、作業所内外の片付・清掃を行う。

d . 概要図

フェンス 平面図など

図面またはカタログをコピ

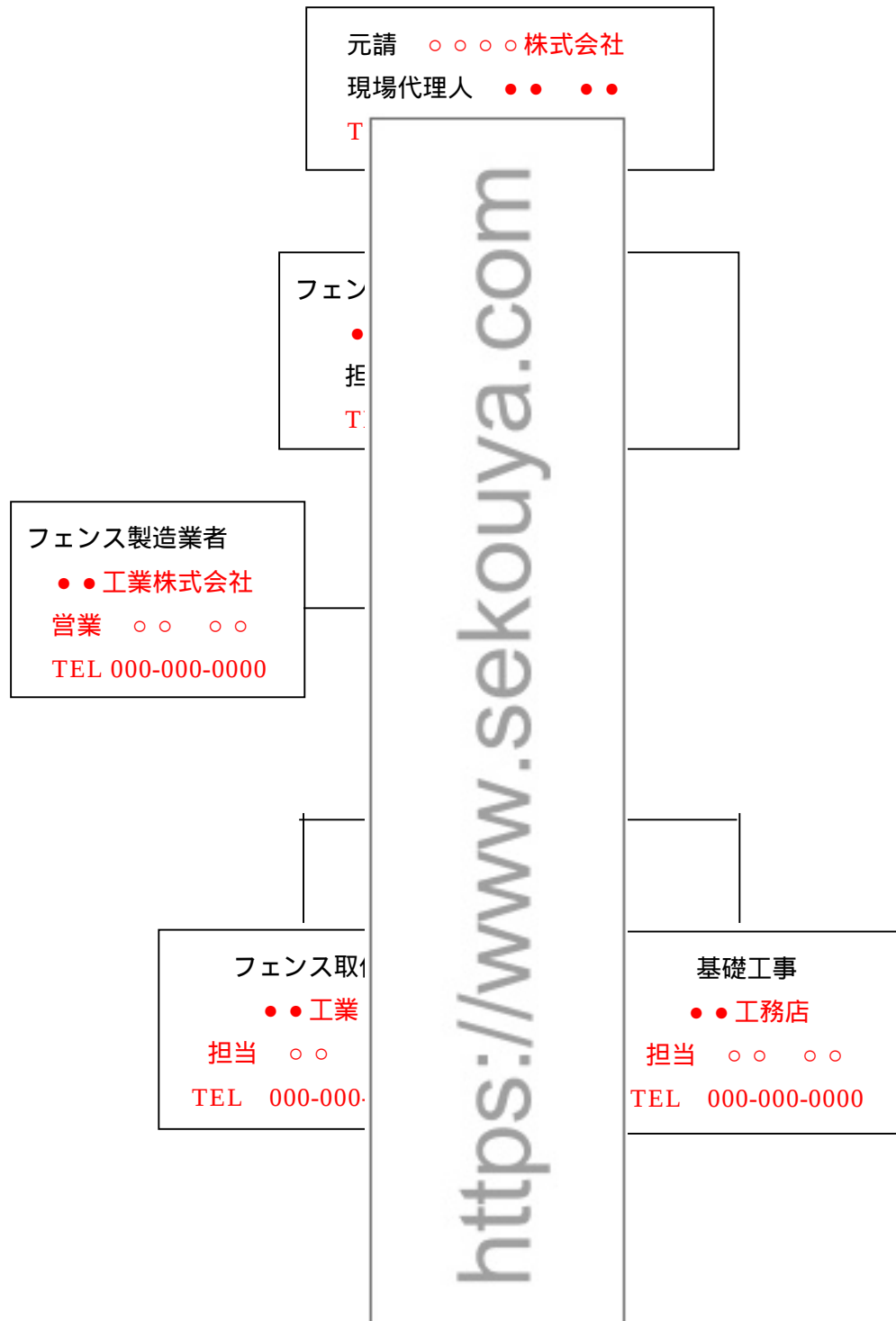
<https://www.sekouya.com>

1 スパンの立面図など

<https://www.sekouya.com>

断面図など

e . 施工体制



2) 布基礎工事

a. 使用材料

(1) セメント

セメントは JIS R 5210 (ポルトランドセメント) の規定に合格する普通ポルトランドセメントとする。(○○セメント)

(2) 川砂

砂は良質で、有害量の塩分(試験成績表添付)。積上げモルタルし、充てん用モルタルに使用(10mm のふるいを通過)

物などを含まないものを使用する(試験度は、2.5mm ふるいを通過するものとする)入する空洞部最少径の 1/5 以下とする

産 地	○○県
-----	-----

る

(3) 鉄筋

鉄筋は異形棒鋼を使用し、

を使用する。(D10、D13)を使用する。

(4) 水は清浄なものを使用し

(5) モルタル

普通ポルトランドセメントによる。

使用し、モルタルは左官工事施工計画書

(6) 充填コンクリート

コンクリート工事施工計画書
18N/mm² 以上とする。

クリートにより、設計基準強度は、

(7) コンクリートブロック

コンクリートブロックは、

同コンクリートブロック)の規定に合格

圧縮強度は 16N/mm² (旧 B 種) 以上とする事ができる。

造の場合は 12N/mm² (旧 B 種) とする

厚さ	水密性	種別	積方の種別	所用数量 m ²
100	普通	A	塗下	12.5 個
150	普通	A	化粧積み	〃
150		B	化粧積み	〃

製造メーカー

○○県○○市○○町

●●産業株式会社

b . 墨出し・遣り方

工事に先立ち墨出し、下図のような遣り方を設け、水平位置および垂直位置の割り付けを行う。

遣り方は移動しないように固定部等を利用して強固に取付ける。

遣り方を設置後、監理者・土地所有者、および隣地所有者に立ち会いを求め、了解をうけた後工事に取りかかる。

c . 基礎の施工

(1) 掘 削

掘削はバックホウ(0.4m³)
過ぎに注意して所定の深さ
・床付けは人力で行い、片

まで掘削する。掘削床を痛めないよう掘
(型)ダンプに積み込み搬出する。
ける。

(2) 地 業

切込み砕石(C40-0)は監督
ソイルコンパクターで転圧

使用し、所定の高さまで人力で敷均し、

(3) 鉄 筋

鉄筋は JIS 規格に合格し
加工は設計図書に基づき、
監督員の検査を受ける。

承諾を得たものを使用する。鉄筋の切断
束不十分のないように組立て、完了後に

(4) 型 枠

型枠は木製型枠を使用し、
調整する。コーナー部の正

法を確保して、単管とサポートで通りを
る。

(5) コンクリート

生コン ($\sigma 28 = 210\text{kg/cm}^2$)
打込み前に打設場所を清掃
ーターで十分に締め固める。

得たものを使用する。
た後コンクリートを打込み棒状バイブレ

d . コンクリートの伸縮目地の間隔

一般に伸縮目地の間隔は 20m , 目地幅は 10 ~ 15mm を標準とし , 高さの変化する箇所 , 曲線部の始点・終点等に設け , 基礎まで伸縮目地で切る。

3) ブロック工事

a. 施工準備

- (1) 設備配管を貫通させたり、埋め込んだりする箇所は鉄筋コンクリート造とし、ブロックを割り付ける。
- (2) 施工図により係員と十分打合せを行い地墨、タテ墨の確認をする。
- (3) タテ筋および横筋の位置を修正する。
- (4) 施工図に従い水平方向おの割付をする。
- (5) モルタルの調合（容積比

種 別
充てん用
目地用
化粧目地

モルタルは
目地幅は 10

川 砂
3
2.5
1

切る

b. 鉄 筋

(1) 配筋方法

主筋（縦筋）および補強筋は重ね継手とし、鉄筋の端部、隅部および開口部は縦筋はブロック積みの鉄筋の定着および継手

重ね、10d 以上片面アーク溶接とする。
mm 以上の鉄線で結束する。
鉄筋で補強する。
る。

適 用 付
開口補強筋・帳壁
一般部分の鉄筋

着	重ね継手
1	40d
1	

補強筋の形状は D10 mm
タテ筋、ヨコ筋共モルタル
上とする。（d：鉄筋の
たて筋、よこ筋の交差部

mm、ヨコ 400 mmとする。
以上とし、ヨコ筋の重ね継ぎ手は 40d 以
する。

配筋の間隔および補強筋は、次のとおりとする。

鉄筋に対するコンクリートまたはモルタルのかぶり厚は、適正なものとし、縦筋はブロック積み作業より先行して溶接し、横筋は縦筋に結束することにより確保する。

縦 筋	横 筋	開 口 補 強		端部補強筋
		縦	構	
D10-@800	D10-@800	1 - D13	1 - D13	1 - D13

c . 根付け

ブロック積みのベースモルタル
を行い、最下段ブロックから
不陸の著しい箇所は、予め
その上で、接着を特によく

が下地とよく密着するよう清掃、水湿し
平滑にする。
厚分平滑に塗布する。

d . 目地モルタル

目地幅は厚さ 10mm を標準
ように塗り込む。縦目地モ
化粧積みとする場合は目地
脂モルタルを使用し、凝結し

はブロック上端に敷き込み、隙間のない
隙間なく塗り付ける。
。使用するモルタルは、保水性の高い樹
必要量づつ調合する。

e . 積み方順序

ブロックの地墨ならびに遣
水系の長さが 4 m を超える
横筋の段に来たら横筋用ブ
で積み上げる。

部から中央に逐次積んでいく。ただし、
準になるブロックを設ける。
し、モルタルを充填し順次所定の高さま

- (1) 積み上げは垂直方向の割
- (2) ヨコ目地モルタルはブロ
小口面に適量を載せ軽く
- (3) 積み上げた後、ブロック
- (4) ブロックを 2 段積み上げ
- (5) T 字、L 字取合部および
を空隙ができないように
- (6) 鉄筋を挿入する空洞には
- (7) ブロックの接合によって
を充填する。

部より水平方向に 1 段ずつ積み上げる。
このせ、タテ目地モルタルはブロックの
ようにして調整する。
ルはキレイにコテではらいとる。
洞部にモルタルを入念に充てんする。
筋を挿入し取合い箇所を欠取りモルタル
にモルタルを充填する。
に鉄筋が挿入されない場合でもモルタル

- (8) ブロックを積み上げ充填した後は、養生時間をおき目地仕上げを行う。

f . 養 生

- (1) 目地モルタルおよび充てんしたモルタルが硬化するまで、振動・衝撃・荷重などを与えないように注意する。
- (2) 施工ずみのブロックの空洞部には、雨水が入らないようにする。
- (3) 積上げ直後に気温の低下が予想される場合は、シートにて養生を行う。

g . 施工結果の確認

作業完了後、不良箇所の有無を確認し不良箇所の補修を行う。

確認項目	確認時期	確 認 方 法	確認者	不合格時の処置
墨出し確認	施工前	スケールにて実測	施工者	修 正
材料搬入	材料搬入	視で	〃	交 換
配筋検査	施工時	状況	〃	修 正
モルタル充填	〃	充填部	〃	修 正
化粧目地	〃	検査	〃	修 正
通り測定	施工後		〃	補修または積み直し

h . 境界

後々問題を残さないために、

- (1) 石標の据付けは関係者立
- (2) 石標には、境界線を明示
- (3) 石標の設置は、測量図に
- (4) 石標の据付けは、土地所

立会い検査を行う。

位置に正しく埋設する。

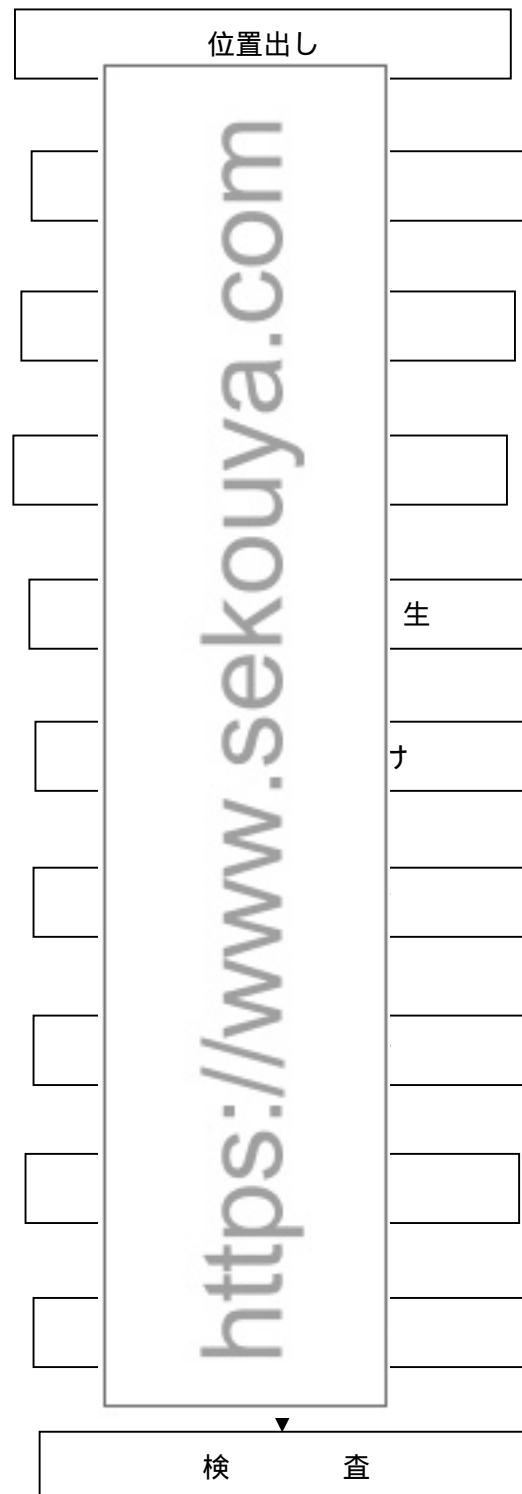
・ 番号等を、必要に応じて掘り込む。

に正しく埋設する。

・ 道路管理者等の立会いの上で行う。

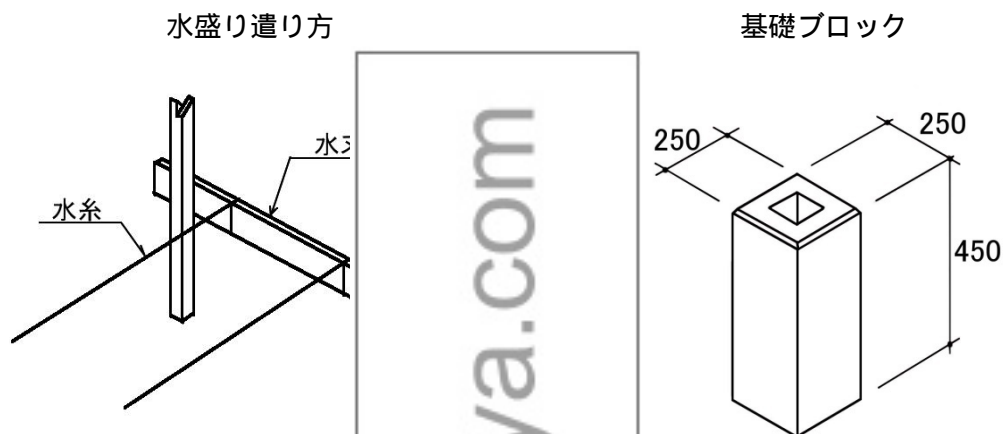
4) フェンス工事

a . 施工手順フロー



b. 基礎ブロックの据え付け（独立基礎）

（１）遣り方



（２）地業

設置場所の要所要所に杭を打ち、始めに掘る深さ、位置を決定し、掘る。

割栗石を厚さ 100 ミリ程度敷き、空間に食い込ませる。充分平らに面を均す。

基礎石を水系に合わせて位置決め、レベルは水系を張り、正確に低いときはモルタルを敷き、基礎石の位置が確定したら、基礎石が動かないようにする。基礎石に芯柱の通り芯柱を打ち込む。

基礎石の位置を決める。

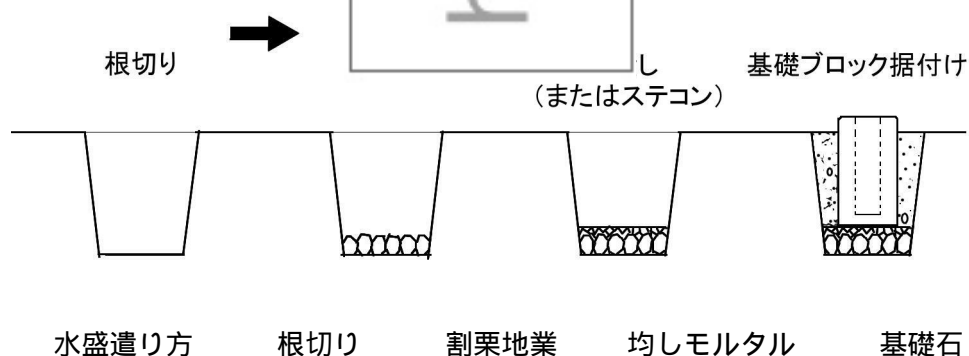
位置に深さ 50cm、巾 50cm 四方の穴を

掘り、割栗石の厚さ 1 / 3 ほど敷き込み、から突き固め、均しモルタルを敷き、水

を注ぎ込み固め込む。

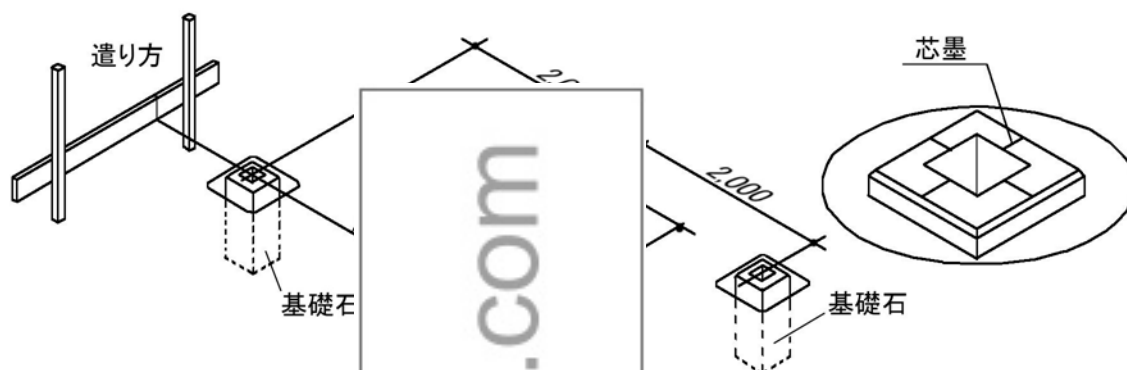
基礎石で固定するか、土を埋め戻して基礎石

・施工順序



(3) 基礎石（ブロック）の位置決め

- ・ 基礎石に柱芯の墨を打つ。

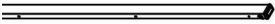


基礎ブロック寸法

W250 × D250 × H450

c . フェンス材料

(1) T - 18 型部材一覧表

部材名称	形 状	数 量
柱 T-18		1
M5 フックボルト		4
継手		6
M4 × 10 丸先トラスネジ		6
M5 フランジ付六角ナット		4
コーナー継手		2
コーナー継手 B		4
コーナー中間継手		1
コーナー中間継手 B		2
M6 × 18 角根ボルト		6
M6 用六角ナット		6
M6 用平座金		6
小口キャップ		20

d . フェンスの施工

(1) 施工上の注意点

ねじは全て確実（ねじは止める面に対し、傾かないように垂直）に締付ける。

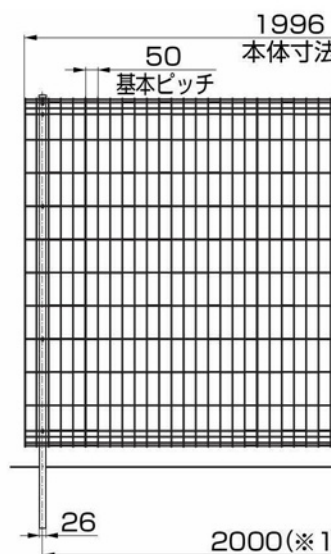
基礎はメーカーの指示寸法以上にする。

コンクリートまたはモルタルの養成期間は十分（４日～７日）とり、養成期間中は重い物をのせたり振動させたりしないよう、その旨の注意表示をする。

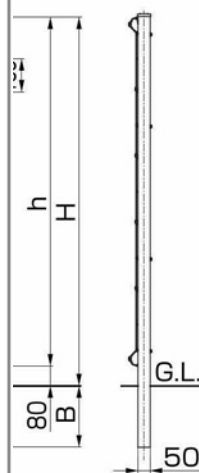
アルミ部材の腐食防止のため、以下の点に注意する。

- ・基礎用のコンクリートおよびモルタルに海砂を使用しない。
- ・また、凝結促進剤、減水促進剤、凍結防止剤などを使用しない。
- ・アルミ部材の表面に付着したコンクリート、モルタルなどの汚れは、速やかに取り除く。
- ・アルミ部材と、銅板、鉛、ニールテープ、塗装など接触しないようにする。必要に応じて、ビニールテープなどで保護する。
- ・柱などを立ててからコンクリートを入れた後に柱を立てると、柱の水抜き穴はモルタル等で塞がない。
- ・使用上危険な個所などがないか点検する。
- ・確認する。

（２）姿図および基本寸法図



T-18
はT-15を示す。

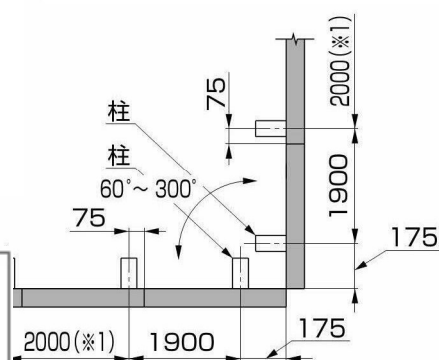
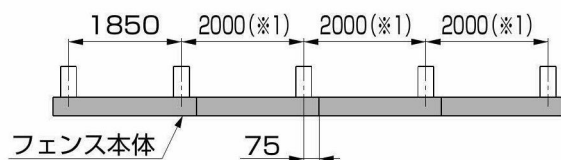


T - 18

H = 1,800

h = 1,720

B = 300



平面図

(3) T - 18 型の留意点

柱芯々の寸法は 2,000mm
コーナー部には必ず柱を
独立基礎で施工する場合
柱位置が変わることがあ

(1)

金手を使用する。

の大きさの違いによって、コーナー部の
当たらない範囲で施工する。

(4) 柱と本体の取付けおよび

<https://www.sekouya.com>

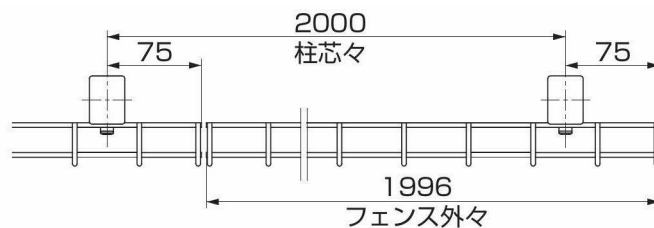
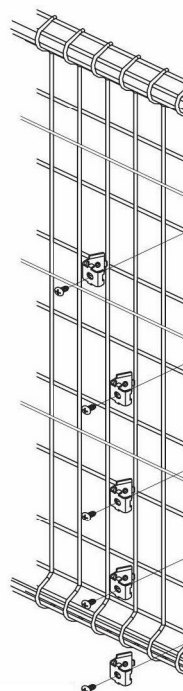


表2-1

継手の位置 (GLからの高さ)	
T-15	T-18
1210	1465
940	1115
670	765
400	415



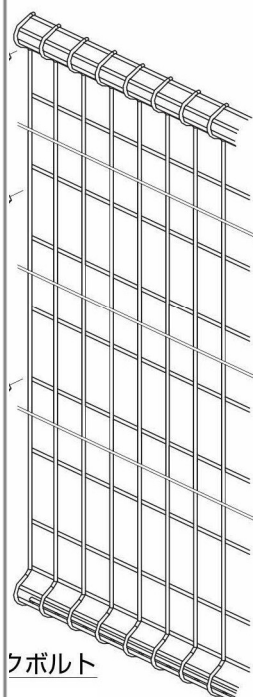
継手

【1-1】

【1-2】 フランジ付六角ナット

仮止めフック

柱



クボルト

(5) 組立て時の注意点

柱を基本ピッチ 2000m

柱の仮止めフックにフ

隣の柱の仮止めフック

み M4×10 丸先トラス

継手を締め付けるネジは締めのきつすぎないようにする。締めすぎると継手に変形することがある。

フェンス本体の連結部は柱から 75mm にする。

フェンスを切断する場合は必ず一番端部のフェンスを切断する。中間部のフェンスを切断すると継手を取付けることが出来なくなる。

中間の継手の間隔は均等に振り分ける。(表 2-1 参照)

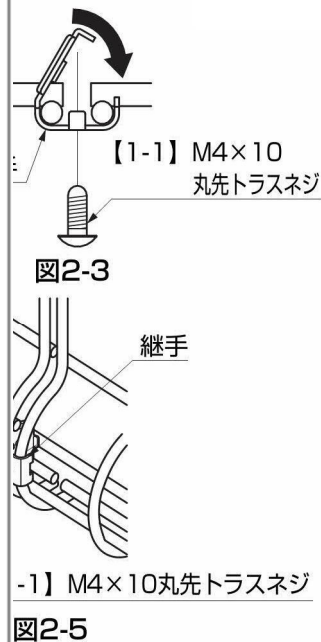
フックボルトを柱に通しフランジナットで締め付け、フェンス本体を固定する。

掛け、フェンス本体同士を継手で挟み込
2-2, 図 2-3, 図 2-4, 図 2-5 参照)

フェンスの垂直・レベルを出し、柱脚部にモルタルを埋め硬化・固定する。

補足

- ・フックボルトでフェンス本体を固定するとフェンス本体が柱の仮止めフックから若干浮いたようになることがあるが、強度的には問題ない。
- ・道路側からの施工が不可能な場合は、フェンスの裏側からフックボルトを付けることができる。



(6) コーナ部の取付け

柱はコーナーをはさんで

- ・コーナーの対応角度は
 - ・コーナー部の連結部は、
 - ・コーナー部のフェンス
- (図 3-2, 図 3-3, 図 3-4)
- フックボルトおよびコ
- ける。

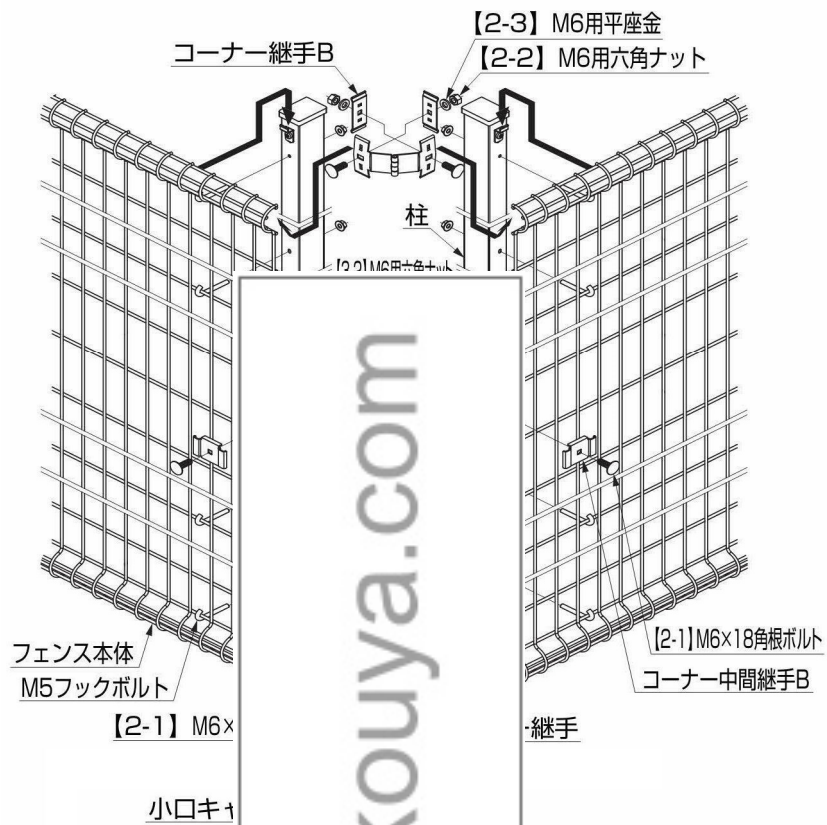
フェンスを途中で切断する場合は、縦材より 5mm 以上残して切断し小口キャップを取付ける。(図 3-1 参照)

(注意) フェンスを切断した時には、必ず小口キャップを取付ける。ケガをするおそれがある。

施工する。

- ・一継手の表裏を使い分ける。

ットをゆるみのないように完全に締め付



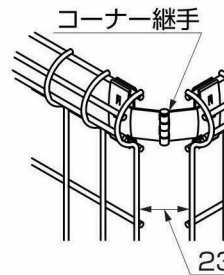
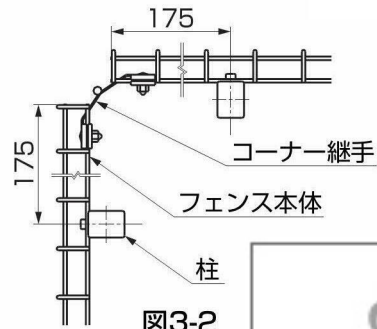
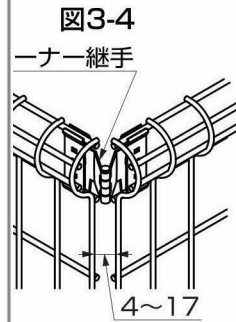
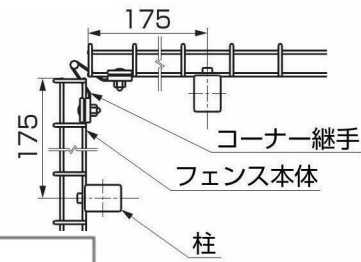
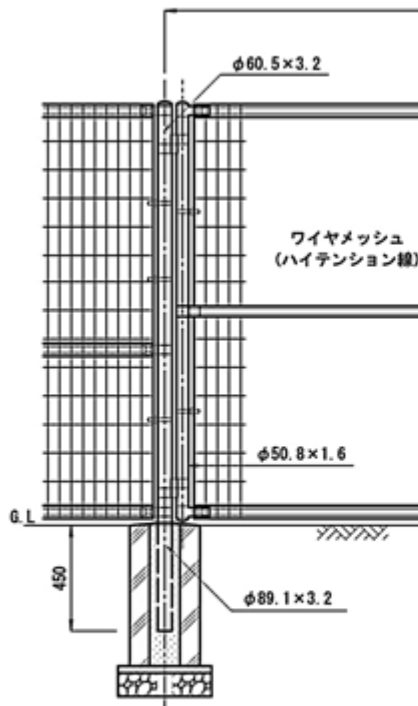


図3-3 フェンスの間隔

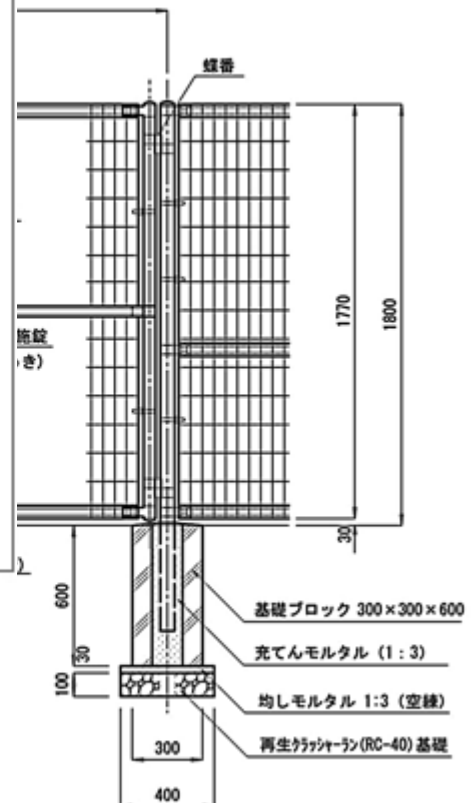
独立基礎で施工する場合、二置は変わってくるが、基礎と

5) メッシュ門扉



フェンスの間隔が狭い場合

きさの違いによって、コーナ一部の柱位で施工する。



<https://www.sekouya.com>